Peppolが輝かせる「主役」たち　～中央フードサービス、「自分ごと」化への挑戦～

2025年５月９日、デジタル庁は、中央フードサービス株式会社（大阪市福島区）との間で、2024年度にTriplo M’s S.A.（菅原淳矢CEO、スイス）の協力を得て行ったPeppol e-invoiceの取組について「振り返り」をしました。

中央フードサービス株式会社　伊藤氏（左）　井口氏（右）

デジタルインボイスによる請求が行われた出汁

中央フードサービスは、「商品価値向上による新規販売先の開拓」や「CX（カスタマーエクスペリエンス）の向上」等を目的にデジタルツールの活用を進めています。その中で、データ化された商品情報を請求にも連携し、取引先との間の請求においてデジタルインボイスも利用しました。

「振り返り」では、「生産者の思いを直接表現することで、商品価値を高められた」（伊藤本部長）といったこれまでの取組に対する総括があったうえで、「品質の高さは勿論、安定供給できる安心感を提供したい、我々がセレクトした理由を伝えて顧客からの信頼を高めたい」といった新たな可能性について意欲も示されました。

また、デジタルインボイスの利用についても「既に新たな取引先とデジタルインボイスの利用について話を始めている」（井口氏）との話とともに、デジタルインボイスの利用によるバックオフィス業務の更なる効率化にも期待が示されました。